



四 気 折 々

川越町立川越中学校
「学校だより」
第10号
令和4年6月3日

四気＝川越中学校訓 「やる気 ほん気 こん気 げん気」

学校教育目標 『自立した生徒の育成 ー自律・調和・創造ー』のもと

- ・自分を大切にすること
 - ・他者を大切にすること
 - ・粘り強くやり切る
 - ・人を大切にすること
 - ・安全で安心できる
 - ・地域や保護者とともにある
- 生徒 学校 づくりを目指します

学校教育ビジョン「地域や保護者とともにある」学校づくりから
『第1回学校関係者評価会議』を開催しました。

【川越中学校学校関係者評価会議とは】

学校づくりビジョンや学校経営方針及び実際の教育活動・学校運営の状況について、開催される会議等から把握した上で、次にあげる事項を行う。

- ① 年間の取組に対しての学校自己評価に基づき、学校関係者評価を行う。
- ② 学校関係者評価を会議の総意としてまとめ、学校及び教育委員会に提出する。

※ 関係者評価会議委員は、校長が学校の特色及び地域の実情に応じて、「学校評議員」、「校区内の地域住民」「学校の保護者」「当該学校に属さない教職員」「学識経験者」「教育委員会が必要と認めた者」のうち、様々な教育的観点から校長が推薦し、教育委員会からの委嘱状を交付する。



【川越中学校学校関係者評価会議委員のみなさん】

加藤 志保子 様	社会福祉協議会会長	小西 照代 様	民生児童委員協議会会長
牧野 孔美 様	人権擁護委員	小澤 季見子 様	民生児童委員協議会主任児童委員
星野 好延 様	民生児童委員協議会主任児童委員	舘 和彦 様	保護者 (元PTA会長)
伊藤 健一 様	保護者 (前PTA会長 現顧問)	早川 尚孝 様	保護者 (PTA会長)

5月31日(火) 10:00 から、「第1回学校関係者評価会議」を感染対策も含めて、授業参観は廊下からのみとし、会議も間隔を広げて実施しました。本校の学校づくりビジョン「地域と保護者とともにある学校」としての取組の一つでもあります。校長からは、「人権教育」と「教員研修」を教育活動の中心として位置づけ、仲間づくりを土台とした学級経営・学年経営・学校づくり」をすすめていることをお伝えし、先生方が大切にしている「学級通信」「学年通信」の内容にも触れながら、子どもたちの落ち着いた学校生活の紹介をしました。落ち着いた学校生活には、子どもたちが授業を大切にしていること、あいさつがしっかりとできること、そして、先生方が日々子どもたちに寄り添いながら、丁寧にメリハリのあるかわりを継続していること。1時間1時間の授業を工夫し、授業改善の視点を持って取り組んでいることを伝えさせていただきました。

【学校関係者評価会議委員のみなさんからの意見や感想など】(一部抜粋から)

< 感想を含めた意見 >

- ◇ 3年ぶりに学校での子どもたちの様子を目の前で見ていただいて、本当に嬉しく思いました。
- ◇ 休み時間など、すれ違う多くの子どもたちが元気よく「こんにちわ」とあいさつをしてくれました。
- ◇ 子どもたちがどのクラスでも授業に落ち着いて取り組んでいるのがわかります。

- ◇ タブレットを活用した授業で、子どもたちがタブレットを使いこなしている様子を始めて見て、時代が変わったのだなあと思えます。そして、これからはこのような授業が主体になっていくのかわかりました。
- ◇ 子どもたちが、50分の授業を集中してやりきるのには難しいと思う。理解度も違うと思うが、「班活動を多くのクラスで取り組んでいる」ことは、仲間と話しながら一緒に考えたりなど大切だと思いました。
- ◇ 英語の授業で「カントリーロード」の曲がスクリーンに映し出され、先生と子どもたちが一緒に楽しそうに学びを深めているのかわかりました。すごく大切なことだと思います。
- ◇ 校長からの「今年度はコロナ対策と併せながら学校行事をすすめ、可能な限り保護者も子どもたちの活動の様子を見る機会も検討していく」という内容について嬉しく思います。
- ◇ 中学生の登校時、自転車通学する子どもたちに「おはよう」と声をかけると、しっかりとあいさつをしてくれる。中学校はあいさつのできる学校ですね。

< 質問と要望等 >

- ◇ 教室を見てみると、1年生はクラス人数の関係もあり広く感じるが、2・3年生は1クラスあたりの人数も多く、教室が狭く感じます。また、廊下にはタブレット用充電保管庫も置いてあり、防災や緊急時の場合に不安に思います。新しく建設される校舎には「教室や廊下の広さ」を要望してほしいです。
- ◇ 授業において「少人数教育」などは行っているのでしょうか。
- ◇ コロナ禍において、臨時一斉休業日にはオンライン授業をしていただいたが、今後、タブレットの持ち帰りを含めて、コロナ感染状況において自宅学習が必要になった場合など「授業に遅れがないように」「学びを止めないように」ぜひ、自宅でもタブレットを活用した学習への検討を要望したいです。
- ◇ タブレットをはじめ、インターネットを介したいじめなどのトラブルに対して、学校でも講話などの取組をお願いしたいです。また、今年度も人権作文への協力をお願いしたいです。

会議からの「質問と要望等」についての回答は、改めて学校だよりにて詳細について報告をいたします。

先輩！ 川越中学校へ ようこそ！！ Ver.2 大切な卒業生・・・ 『大学生教育ボランティアとして母校、川中で頑張っています』

昨日の「学校だよりNo.9」でも紹介した本校の卒業生でもある教育実習生2名以外にも、今年度、「大学生教育ボランティア」として、大学3年生から「教員になる夢を実現するため」に頑張っている『稲垣 友菜先生』を紹介します。

「教育実習」とは、「教員免許状を取得するために必要な大学3・4年時で取り組む授業実習」です。「大学生教育ボランティア」とは、将来、教員を目指す大学生が自分の意志で、大学の授業の空き時間等を利用して「教員を目指すための学習をボランティアとして取り組む」活動です。特別支援教育を中心に学びたいという稲垣先生の考えから、6組での授業補助や各学年の授業補助をしていただく予定です。本校の大切な卒業生です。頑張れ卒業生！

【 稲垣 友菜 (いながき ともな) 先生 】 三重大学教育学部 3年在学中 (大学生教員ボランティア)



川越中学校のみなさん初めまして。5月から教育アシスタントをさせていただいている稲垣 友菜です。私は今大学3年生で、「将来学校の先生になるための勉強」をしています。5年前、母校の川越中学校を卒業しました。制服がブレザータイプも導入され、新鮮な感じがする一方、お世話になった先生方が何人かいて懐かしく感じています。母校のみなさんは、廊下ですれ違ったり「元気にあいさつ」をしてくれてとても嬉しかったです。6月も毎週金曜日

日がボランティアの日なので、見かけたらぜひ声をかけてください。みなさんの名前を一人でも多く覚えてほしいので、名札を見せてアピールしてください。＜稲垣先生は中学校時代から明るく元気で、いつも笑顔で仲間に優しく接していたのを覚えています。吹奏楽部の部長としても頑張っていたのを覚えています。(校長より)＞

